

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立第三中学校）

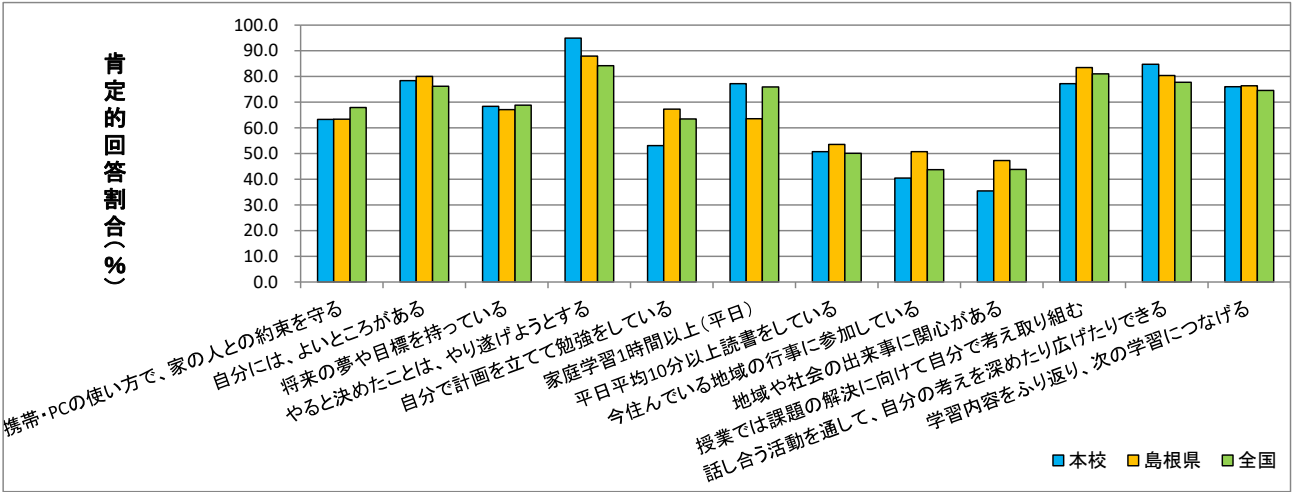
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
国語	○どの領域も全国・県平均正答率を上回っており、基礎学力が身についていることがわかる。 ○「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」の正答率が高く、生活と関連づいた学習への興味関心の高さがうかがえる。 ●「記述式」の正答率が低く、無回答率も高い。	・課題作文を条件に応じて書きこなせるように、興味ある題材を中心とした「書く」活動を取り入れていく。
数学	○説明を自分のことばで表現することに苦手意識を持たない生徒が増えてきて、記述式の問題の正答率が全国平均よりも高い。 ○どの領域においても県平均を上回っている。 ●図形領域の正答率が全国平均よりもかなり低い。	・引き続き、考えを表現する活動の時間を確保する。 ・図形領域においては、視覚的に関心をもつことができるようICT機器を活用するなど課題の提示を工夫する。

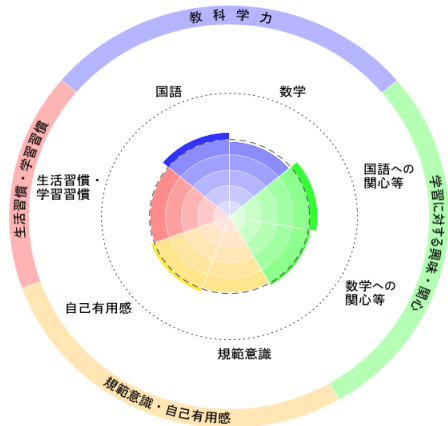
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
○友達と協力するのは楽しいと思う生徒の割合が高い。また、自分でやると決めたことは、やり遂げようとする生徒の割合が高い。 ○家庭学習を平日1時間以上する生徒の割合は、県平均より15%近く高く、全国平均と変わらない。 ●地域や社会への関心が低く、地域行事にも参加していない傾向がある。 ●自分で計画を立てて勉強する生徒の割合が少ない。	・コロナ禍において、地域行事等が中止になったことも大きいですが、今後とも総合的な学習の時間に、地域の「ひと・もの・こと」に触れることを通して、地域のよさや人の思いに気づき、地域の人とのつながりを深めていく。 ・定期テストの試験勉強の計画を立てるときに、具体的な対策等を支援して計画的な学習が自らできるようにしていく。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・メディアの接触時間が長い生徒が多く、保護者との約束も守れていない現状があるので、メディコントロールウィーク等を利用したり、公開授業や保護者向け講演会を実施して、保護者、小学校と連携してメディアとのより良い付き合い方に取り組んでいく。
- ・キャリアパスポートの充実や地域の方と関わる機会を増やすことで自他の良さを発見し、将来の夢や目標をもてるようにする。

【受検者数】 79 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。